

平成29年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT29205 プログラム名 はたらく犬と私にもできるリハビリお助け隊～動物介在療法と補助犬作業療法プログラム～



開催日：平成29年8月6日(日)、7日(月)

実施機関：岐阜保健短期大学

(実施場所) (岐阜保健短期大学学生ホール)

実施代表者：原 和子

(所属・職名) リハビリテーション学科作業療法学専攻特任教授

受講生：小学生 18 名、中学生 14 名、高校生 7 名

関連 URL: <http://news.gifuhoken.ac.jp/article/452760247.html>

### 【実施内容】

#### 【プログラムの留意、工夫点】

効率の良いプログラムとするために、参加申込者には事前に「働く犬クイズ」及び当日グループ活動、PBL (Problem Based Learning 問題解決型学習) チュートリアル形式で用いるシナリオを郵送し、あらかじめ予習してもらった。

1 日目: 小・中学生のテーマ「働く犬、ランキング」では「介助犬ユーザーからの手紙」「盲導犬ユウが話せたら…」「聴導犬イコマが話せたら…」「働く犬、いろいろ」と題するシナリオを用意した。「働く犬～作業療法としての補助犬、動物介在療法」講義後、補助犬のデモと体験、その後グループ討議、発表と続けた。昼食では参加者、多くは付き添いの親、兄弟とペアを組み、一人がアイマスクにて視覚障害を体験しながらお弁当を食べ、もう一人は時計の文字盤を想定した説明を手がかりに中身を教える支援を体験した。それぞれ 10 分ずつで交代した。犬とのデモでは、聴導犬による音源探索体験、盲導犬による歩行体験、介助犬による物の拾い上げ、靴下の脱衣体験など、希望者を募り、実施した。車いす体験など障害体験、補助犬体験をまじえて「働く犬、ランキング」をまとめ発表した。

2 日目: 高校生のテーマ「補助犬あるいはお手伝い犬と暮らすためのリハビリ・プログラムを考える」とし、盲導犬、聴導犬、介助犬、それぞれ3症例シナリオを検討した。当日、事前にシナリオを配布していたため、参加者は内容を良く把握していた。



「参加者による実習体験デモ。」

## 【当日のスケジュール】

平成 29 年 8 月 6 日(日)8 月 7 日(月)両日に亘り開催された。朝 10 時より受付、11 時より開講式を行った。オリエンテーションでは、今事業が日本学術振興会の主催であることの説明をした。

6 日(日)は小・中学生を対象に以下のスケジュールとなった。

10:00～10:30 受付(岐阜保健短期大学学生ホール)

10:30～11:00 開講式(あいさつ、オリエンテーション、科研費の説明)

11:00～12:00 講義「働く犬と作業療法(講師:原 和子)」(途中 10 分休憩)

12:00～13:00 昼食(日本聴導犬協会、盲導犬ユーザー、ガイドヘルパー、ボランティア、付き添いの方々を含めて、視覚障害体験をしながら)

13:00～14:00 実習「介助犬・盲導犬・聴導犬の仕事(日本聴導犬協会、盲導犬ユーザー)」

14:00～15:00 グループワーク「働く犬、ランキング」(PBL方式) & ティータイム

15:00～15:20 PBL発表準備

15:20～16:00 PBL発表

16:00～16:30 修了式(アンケート記入、未来博士号授与)

16:30～ 終了・解散

7 日(月)は「非常に強い」台風 5 号接近のため、朝から大雨警報が出ていたが、ゆっくりと進んでいる状況から夕方に岐阜市通過と予想され、時刻どおり開催した。しかし、交通機関の運休が予想されるため、参加者の欠席、付き添いの高校教師が台風に備えて学校待機となるなど、各方面での緊急対応が求められた。暴風警報が出た時点で午後からのプログラムを短縮し、13 時には終了した。午前中に講義「働く犬と作業療法」、補助犬のデモ、障害体験を行い、昼食時にはまとめとして話し合いをし、修了式を経て終了した。



「盲導犬デモ。目覚まし時計のお知らせ」



「講義: 将来、科学研究費をいただけるような研究に挑戦しましょう」

## 【実施の様子】

小学生、中学生は普段接するペットとしての犬よりも、賢い能力発揮に驚き、また感動しながら体験を楽しんでいた。車いす体験は特に人気で、昼休み時には校庭に出て移動操作の技を競っていた。盲導犬との歩行体験、介助犬体験、聴導犬体験とも、今回は参加者が多数であった為、手を挙げて積極的に参加していた。

高校生は、携帯電話による家族との連絡をとりながら、熱心に参加した。犬へのコマンド体験では適切な指示ができるようになるなど積極的な参加が目立った。

### 【事務局との協力体制】

限られた期日の中で、教職員と共に会議、広報活動に参加し、学術振興会との連絡等を敏速かつ密に計り、よりよい事業とすることができた。

開催両日は、短大当局との折衝によりエアコンの効く会場への変更など、様々な場面で協力体制をとることができた。



「盲導犬との歩行体験」

### 【広報活動】

パンフレットを早めに用意できたため、岐阜県内岐阜・西濃地区の全小中学校に郵送した。特にいくつかの小中学校では校長先生との関係がいき、子供たちへの参加を支援していただけた。近隣の小・中・高校には直接出向いて、パンフレットを配付すると共に本事業を広報した。

### 【安全配慮】

6日(日)は、会場のエアコンが調子悪く、数名の子どもが熱中症状となり別室で休ませた。あるいは途中で家族の迎えをお願いした。参加者の体調に注意し、休む為の別室を用意するなどの配慮ができた。

7日(月)は会場をエアコンの効く部屋に換え、対応できた。台風への対応として、気象情報を随時注意し、スケジュールを短縮し、交通機関、暴風雨などの問題になる前に、参加者を無事保護者の元にお返しすることができた。

結果、障害保険に加入したが、対象となるケースを出す事なく無事終了することができた。

### 【今後の発展性、課題】

このプログラムを知った重度障害者(脳性まひ)の方が見学を希望し、介助犬の体験に飛び入り参加した。この方は言語障害もあり手を出す事もできない状況であったが、介助犬が車椅子ボード上に拾い上げたスプーンを乗せるなど、犬にとっては始めて経験する作業もこなしているのが皆の拍手喝采を浴びた。重度障害者にも補助犬が有効であることを示唆した。子供たちだけでなく、社会的貢献に寄与する機会だった。

三河の高校では地域貢献部活動として先生の指導のもと、グループで参加するなど、教育への効果が期待された。



「盲導犬デモ。公共の緊急警報音が出た時に知らせる姿勢」

### 【実施分担者】

廣渡 洋史 作業療法学専攻 教授

宇佐美 知子 作業療法学専攻 講師

藤井 雅也 作業療法学専攻 講師

廣田 薫 作業療法学専攻 助教

中根 英喜 作業療法学専攻 助教

【実施協力者】 \_\_\_\_\_ 34 名

### 【事務担当者】

森山 章 岐阜保健短期大学 事務局長

澤田 博重 岐阜保健短期大学 課長